特別支援学校（視覚障害）社会科の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　日清戦争による影響について，資料を関連付けて比較したり批判したりして考え，根拠を明確にして自分の考えを発表することができる。

⇨ **思考力，表現力の育成**

□　**学部・学年**　　小学部第６学年
□　**学　年**　第６学年
□　**単元名**　世界に歩みだした日本
□　**本時の目標**　　日清戦争による影響（領土・賠償金・戦死者）について考えることができる。
□　**学習の流れ**（３時間目／全８時間）
《前時までの活動内容》　日清戦争の概要をつかむ

言語活動の充実

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　前時の学習を振り返る。 ○　友だちの歴史クイズに答える。	・前時の学習内容をもとにクイズを作ってくることを宿題としておく。	
2　ねらいを確認する。	日清戦争による影響（領土・賠償金・戦死者）について考える。	
3　日本，清，朝鮮の位置関係を確認する。 4　位置関係等の確認から，気付いたことを発表する。	児童Ａ（弱視）：※白地図使用　指示「日本を赤，清を青，朝鮮をオレンジで塗りましょう。」 児童Ｂ（盲）：※立体模型使用　指示「日本，清，朝鮮の順番で触りましょう。」 ・清は大きいのに，日本はよく勝てたなと思いました。 ・こんな大きな国に勝ったのだから，日本はまた戦争すると思います。	
5　資料から日本が得た領土と賠償金，そして両国の戦死者について調べる。	・日清戦争に関して３つの角度からの資料を配布し，調べてまとめる時間を十分（２５分間）とる。 ・各児童に調べたことを整理するのに分かりやすい表を参考資料として別に提示する。	・資料等を根拠として，自分の意見を発表することができる。〔思考・判断・表現〕（ノート，発表） ・友だちの考えを興味をもって聞いている。〔関心・意欲・態度〕（発言）
6　調べたことをもとに，日清戦争による影響に関して意見の交流をする。	・根拠を明らかにして意見をまとめ，発表させる。 ・友だちの考えについて意見・感想（同意・添加・批判）を発表するときも根拠を明らかにさせる。 ・メモ用紙（児童Ｂには，点字用紙を半分にしたもの）を配布する。	
7　本時を振り返る。	・振り返りカードを利用する。	

指導のポイント

障害の実態に合わせた資料を工夫する

視覚障害のある児童は，視覚による情報収集が困難なために，限られた情報や経験の範囲内で概念を形成する場合があります。視覚補助具の活用や触覚教材といった資料の工夫により，児童が具体的なイメージをもち，的確な概念が形成されることで，言語活動の充実が図られます。

■　弱視児…白地図は，国境を分かりやすくするために線の太さを０．５㎜程度にするとよいです。表やグラフについては，ルーペを使用して読み取る力を高学年では付けておきましょう。ルーペの使用が難しい場合は，拡大読書器を使用することも有効です。

■　盲　児…立体コピー，サーモフォーム，立体模型，エーデル等を用いて，児童の実態と授業の目的にあった資料を作成するとよいです。複数の資料を組み合わせることもあります。

拡大読書器

立体模型

根拠が明確になる表を工夫する

■　根拠となる資料を貼ったり，資料集のページを書いたりすることで根拠を明らかにした発表ができます。
　また，友だちの意見を聞き，自分の考えを振り返ることもできます。

■　表中の「根拠となる資料」欄により，資料の関連付け･比較の視点から，「考え」「意見」の欄により批判の視点から考えをもつことができるようになります。

「領土」についての考え	根拠となる資料
友だちの意見	

視覚障害のある児童にとっても，見やすさは分かりやすさにつながります。

新学習指導要領では

各教科等の指導における個別の指導計画の作成を明示

○　今回の改訂では，**「各教科等の指導に当たっては，個々の児童又は生徒の実態を的確に把握し，個別の指導計画を作成すること」**が明記されました。視覚障害のある児童生徒に対する指導では，**①具体的な事物・事象や動作と言葉とを結びつけて，的確な概念の形成を図り，言葉を正しく理解し活用できるようにすること，②触覚教材，拡大教材，音声教材等の活用を図る**ことなどが配慮事項として挙げられています。

○　本事例では，視覚障害の状態や特性等に合わせて具体的なイメージをもつことができるように資料や表の教材を工夫しています。このことにより，イメージを共有した上での意見の交流ができるようになります。

特別支援学校(聴覚障害) 外国語科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- ○ **英文を読み,自分が得た情報を整理して考えることができる。**
- ○ **ストーリーを組み立て直し，自分の言葉で説明することができる。**

⇒ **思考力，表現力の育成**

□ **学部・学年**　高等部　第２学年

□ **単元名**　Lesson４　The World of Moomintroll

□ **本時の目標**　キーフレーズを探しながら，登場人物に起こったことを本文から読み取り，登場人物の気持ちの変化を英語で表すことができる。

□ **学習の流れ**（９時間目／全１５時間）

言語活動の充実

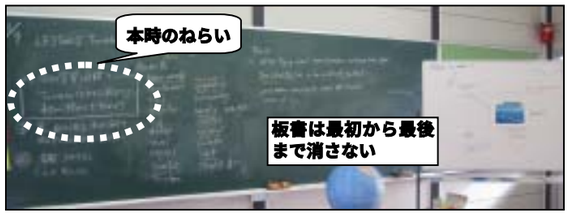
学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　あいさつ **2　ウォームアップ** 本時の単語の確認をする。 **3　前時の復習** 物語の概要把握	・相手の目を見て，英語ではっきりと挨拶をしているか確認する。併せて聞こえの確認をする。 ・フラッシュカードで教員が発音を確認する。生徒同士でチェックしあえるよう，お互いに問題を出し合いながら英語から日本語への意味の確認をする。 ・理解を確認し，促進するために，生徒との英語でのやりとりを通して前時に把握したストーリーを組み立てる。 ・「聞くこと」を補うために，やりとりで用いる英語は文字にして提示する。 ・生徒とのやりとりを通じて，前時に学習した内容を確認し，理解を促進する。	・英語の発音に留意しながら読むことができる。〔表現〕（発言）
4　新教材の学習 物語を味わう ・視覚教材を用いたオーラル・イントロダクションで物語の概要を描く。 ・キーフレーズを探す。 ・登場人物の気持ちを考える。 ・自分の経験を振り返って，登場人物の問題と対比させる。 ・ワークシートにまとめる。	・本時のねらいを文字で提示し，意識付ける。 ・ストーリーの再構築につなげるために，読み取った登場人物たちの心情を，自分の言葉で説明する機会を多くもつようにする。 ・空想の世界と，現実の世界を視覚的に対比しやすくするために，表にまとめる活動にする。 ・現実の世界を考えるとき，登場人物の経験と照らしわせるために生徒自身の経験を確認しながら物語と結び付けるようにする。	・キーフレーズを探して，下線を引くことができる。〔理解〕（行動観察） ・キーフレーズに関係する出来事を本文から読み取ることができる。〔理解〕（発言） ・登場人物の気持ちを本文中の英単語で表すことができる。〔表現〕（発言） ・登場人物が対面した問題を自分の経験と対比させ，考えることができる。〔理解〕（発言）
5　ストーリーの再構築 **6　本時のまとめと次時の予告**	・本文を見ないで，板書などを参考に自分の言葉で説明するよう促す。 ・難しい場合は，ワークシートで説明のフォームを配付し，まとめるようにする。	

指導のポイント

視覚教材を工夫する

■　オーラル・イントロダクションで概要をつかむとき，<u>関連する情報や，絵カード，具体物等を提示</u>します。そうすることで，イメージを膨らませることができ，英文理解につながります。

板書とワークシートを工夫する



■　<u>本時のねらいは，文章で表記して確認</u>します。クラスで共通のゴールを目指して考えを進めることができます。

■　１時間の板書は，<u>初めから最後まで消さないように板書計画</u>を立てます。そのことで，生徒は授業中にいつでも振り返ることができます。また，<u>板書とワークシートはリンクさせて作成</u>し，ナンバーを付けて整理することによって，生徒がいつでも学習の振り返りができるようにします。そうすることで学習を系統化し，思考を深め，自学につなげることができます。

生徒同士のコミュニケーションを大切にする

今までは

教員主導の説明になりがち。
コミュニケーションが教員⇔生徒
↓
生徒は視線が自分に向っていない時は，注目がそれがちでコミュニケーションが一方向になってしまう。

⇒

生徒同士のやりとりの中で，気付きを促す。コミュニケーションをクラス全体のものにする。
↓
積極的なコミュニケーションの態度が身に付く。

■　生徒同士のやりとりが成立しにくいときは，教員が生徒の発言を復唱し，クラス全体で共有化します。そうすることでコミュニケーションが相互的になり，話者の方を見て情報をつかもうとするなど，<u>積極的なコミュニケーションを図る態度の育成</u>につながります。

■　生徒が発言をするときは，自分に注目するよう他の生徒に働きかけるよう指導します。

新学習指導要領では

書いて表現する力の育成を図ること，視覚的に情報を獲得しやすい教材・教具についてその活用方法等を工夫することが新しく示されました。

○　今回の改訂では，聴覚に障害のある生徒に自分の考えなどを<u>書くことで適切に表現する力を育成</u>することや<u>今まで以上に生徒に分かる授業実践</u>を期待して視覚教材等の活用方法等の工夫が示されました。

○　本事例では，<u>視覚教材でイメージを膨らませたうえで，生徒同士のやりとりを通して英文を読み進めていく活動</u>を位置付けています。他者と意見や考えを共有し，そのことについて自分なりに考えながら英文を読み進めていくことによって思考が深まり，理解した内容を自分の言葉で説明できるようになります。

特別支援学校（肢体不自由・病弱）国語科の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　紹介するおもちゃを選び，選んだ手作りおもちゃについて，順序を考えながら話すことができる。

⇒ **思考力，判断力，表現力の育成**

改善

□　学年　　小学部　第２学年

□　単元名　手作りおもちゃまつりをしよう

□　本時の目標　　おもちゃまつりで紹介する手作りおもちゃを選び，おもちゃの作り方を分かりやすく紹介することができる。

□　学習の流れ（２時間目／全１０時間）

《前時までの活動内容》おもちゃまつりを開催することを知り，見通しや意欲をもたせた。

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　めあてを確認する。 自分が紹介する手作りおもちゃを選んで，その遊び方を紹介しよう。		
2　手作りおもちゃを選ぶ。 ○　図書の本，用意された手作りおもちゃカードなどから，紹介したいおもちゃを選ぶ。 3　作り方を調べる。 ○　文章や図からおもちゃの作り方を調べる。	・身近なもので簡単に作ることができるものにする。 ・文章や図などから，作り方や遊び方を理解させる。 ・図書から直接探すことが困難な児童には，実態に応じて，拡大資料や選択肢をカード化したものを活用させ，選ぶ活動の理解を支援する。 ・動きのあるおもちゃなどは，ビデオ映像を提示し児童の判断のための支援とする。 ・ワークシートに沿って，材料，道具，方法の順に分けて調べさせる。 ・理解を支援するため，材料，道具などは実物を提示し，実際に触らせる。 ・筆記の困難な児童にはシールを活用させる。	・文章や図，映像などからおもちゃの遊び方や作り方を理解し，紹介したいおもちゃを選択することができる。〔選択についての思考・判断〕（行動観察，発言）
4　友だちに紹介する。 ○　おもちゃの作り方を発表する。	・話す順序をワークシートで確認しながら考えて，説明するように指導する。 ・姿勢に注意して，はっきりとした声で落ち着いて話すことができるように指導する。 ・必要に応じて情報機器を活用させる。	・話したいことを順序良く話すことができる。〔表現〕（行動観察，発言）
5　本時の学習を振り返る。	本時の目標に即した振り返りをさせる。	

言語活動の充実

〔例〕

つくりかた	どうぐ	ざいりょう
1　あつ紙から切り取る 2　まん中に二つ穴をあける 3　たこ糸を通してむすぶ	・はさみ ・のり ・千枚通し	・あつ紙 ・たこ糸

指導のポイント

障害特性に応じた支援を工夫する

■　肢体不自由者である児童は，その障害特性により，見えにくさ，とらえにくさ，伝えにくさなどに代表される学習上の困難があります。そこで，**学習時の姿勢の改善や，視覚的な支援（拡大，映像化，情報の整理），補助的手段の活用**の工夫をしましょう。

学習活動	学習上の困難	支援の工夫
手作りおもちゃを選ぶ	・選択肢の見えにくさ ・選択肢の捉えにくさ ・意思の伝えにくさ	・適切な姿勢 ・拡大資料 ・映像化 ・選択肢のカード
作り方を調べる	・工程・材料・道具などの捉えにくさ ・筆記のしにくさ	・適切な姿勢 ・ワークシートの活用 ・具体物の提示 ・シールの活用
友だちに紹介する	・話す順序の捉えにくさ ・友だちへの伝えにくさ	・適切な姿勢 ・ワークシートの活用・ ・情報機器の活用

学習上の困難に応じた支援例（肢体不自由・病弱）

学習上の困難	支　援　内　容
注視や追視が難しい	姿勢保持，視覚支援(拡大や情報の整理)，指差し(視覚と動作の活用)
発声や発語が難しい	姿勢保持，拡声器の利用，支援機器(音声録音)の活用
意思を伝えにくい	絵カードや情報機器（パソコン等）など補助的手段の活用
文字を書くことが難しい	姿勢保持，筆記環境の改善，補助的手段(シール等)の活用
細かな作業が難しい	作業内容の単純化，方法の工夫，補助用具の活用
時間がかかる	指導内容の精選，目的の明確化，適切な課題設定
移動が制限される	学習環境の整備，バリアフリー化
活動が制限される	実生活を踏まえた体験的な学習内容の充実
疲れやすい	姿勢保持，負担過重とならない指導内容の精選，適切な課題設定

体験的な活動を通して学習を効果的に行う

■　肢体不自由者又は病弱者である児童は，身体活動の制限等があることから，様々な体験をする機会が不足しがちです。そこで，具体物を提示して児童に触らせるなど，**実際に体験できるような指導方法を工夫し**，表現する物のイメージを深めるなど，**学習を効果的に行うこと**が大切となります。

新学習指導要領では
表現する力の育成，体験的な活動における指導方法の工夫

○　今回の改訂では，**各教科の指導において，児童生徒の実態に応じて表現する力の育成**に努めることが明確になりました（肢体不自由）。また，**「体験的な活動における指導方法の工夫」**が新たに加えて示されました（病弱）。

○　本事例では，学習上の困難を障害の特性に応じた適切な支援によって改善し，紹介したいおもちゃを選択して作り方を説明する活動を通して，**考えたことや感じたことを表現する力の育成**を目指しています。

小学校特別支援学級（知的障害）生活単元学習の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　買い物に必要なお金や買い物の際に伝えなければならないことを自分なりの方法で考え，自分の考えを伝えることができる。

⇨ **思考力，表現力の育成**

□　**学年**　　知的障害特別支援学級　第２学年１名，第４学年１名　　計２名

□　**単元名**　生活単元学習「かいものをしよう」

□　**本時の目標**

Ａ児（言葉を発することが困難な児童）　値段カードと同じ種類のお金を同じ数だけ出すことができる。
絵カードを使って買いものをすることができる。

Ｂ児　何百何十何円のお金を出すことができる。
買いものに必要な会話ができる。

□　**学習の流れ**（３時間目／全６時間）

言語活動の充実

学習活動	指導上の留意事項		評価規準〔観点〕（評価方法）
	Ａ児	Ｂ児	
1　めあてを確認する。 おなじおかねをもって，かいものごっこをしよう（Ａ児） ちょうどのお金をもって，買いものごっこをしよう（Ｂ児）	・前時までの学習を想起させる。 ・本時の学習の流れを提示し，見通しをもたせる。 ・「買いものごっこをしよう」というめあてを示し，興味をもたせる。 ・絵や写真を使い，見て分かるように買うものを提示する。 ・買うものカードの中から，買いたいものを選択する。		
2　お金の出し方を考える。	・硬貨の写真カードを見て，同じお金を出すと買いものができることを知らせる。 ・硬貨の種類を確認させる。	・位ごとに色を変えた用紙を使い，位を意識させる。 ・硬貨と金額を関連させた教具を準備する。	（Ａ児）値段カードと同じ種類のお金を同じ数だけ出すことができる。〔思考〕（行動観察） （Ｂ児）何百何十何円のお金を出すことができる。〔思考〕（行動観察）
3　お金の出し方を発表する。	・自分が操作した具体物を使って説明させる。 ・言語技術を使って発表させる。		
4　買いものの練習をする。	・買いものに必要な言葉や挨拶を「あいさつカード」で，提示する。 ・支払ったお金と値段カードをマッチングさせる。 ・お金を支払って，品物を手にすることで，「買いものができた」という成就感をもたせる。		（Ａ児）カードや身振り等を通して買い物ができる。〔表現〕（行動観察） （Ｂ児）買い物に必要な会話ができる。〔表現〕（発言）
5　本時の活動を振り返る。	・めあてに沿ったまとめを言えるようにさせる。 ・主語と文末を正しく使って発表させるようにする。		

指導のポイント

知的障害がある児童生徒の学習上の特性としては，学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく，実際の生活の場で応用されにくいことや，成功経験が少ないことにより，主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことなどが挙げられます。また，実際的な生活経験が不足しがちであることから，実際的･具体的な内容の指導が必要であり，抽象的な内容の指導よりも効果的です。

児童の思考を助けるために具体物を使った操作活動をする

－板書及び言葉による指導－

工夫 ⇨

板書及び言葉による指導に加えて
○　見て分かるように，提示する。
○　操作することができる教材・教具を用意する。

■**個に応じた視覚的支援となる教材・教具**

Ａ児・品物の写真と名前，値段をマッチング。
・硬貨の種類で分ける「コインケース」を活用。

Ｂ児・硬貨の種類と数を示した値段カードを活用。
・「お金変身カード」で両替を理解。

「コインケース」

「お金変身カード」

自分の考えを表現し，行動するための方法を提示する

－言葉かけによる指導－
例：「買いものしたことを発表して」

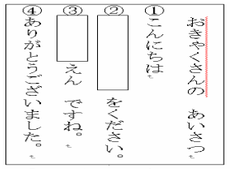
工夫 ⇨

言葉かけによる指導に加えて
○　表現や行動を視覚的に支援する。
○　疑似体験で，支援具を活用し，表現させる。

■**個に応じたカード**

Ａ児・実物の硬貨と値段カードを操作し，言語化。
・写真・絵カードと文字カードをマッチング。

Ｂ児・言語技術の話型を掲示。
・数字等を書き入れさせると，発表原稿となる発表カードの活用。



「あいさつモデル」

■**疑似体験（買いものごっこ）**をする

・「あいさつモデル」を活用して表現。
・「買いもの手順カード」及び「絵カード」の活用。

「絵カード」

かいもののしかた
①かごをとる
②しなものをえらぶ
③かごにいれる
④レジにいって，
　かごをだす
⑤さいふをだして，
　おかねを　しはらう
⑥しなものをもらう
⑦あいさつをする

「買いもの手順カード」

新学習指導要領では

一人一人に応じた指導を充実させることで，「伝え合う力」を重視

○　今回の改訂では，一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育や必要な支援を充実することが示されました。小学部国語科では，**日常生活に必要な国語を理解し，伝え合う力を養うとともに，それらを表現する能力と態度を育てる**という目標が設定されています。

○　本事例では，一人一人の障害の状態等に応じたきめ細かな指導を充実することを重視し，**自分の考えを多様な方法で表現し，伝え合おうとする意欲を育て，友だちとコミュニケーションする意欲及び技能を育てる**ことを目指しています。

中学校特別支援学級（自閉症・情緒障害）生活単元学習の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　問い合わせたい内容について考え，電話を使って必要な情報を伝えたり，聞き取ったりすることができる。

⇒ **思考力，表現力の育成**

□　**学級**　　自閉症・情緒障害特別支援学級　　第１学年　男子（C1）　　第３学年　男子（C2）

□　**単元名**　　生活単元学習「安佐動物公園へ行こう～新入生歓迎会～」

□　**全体目標**　　電話を使って必要な情報を相手に伝え，相手の話を聞き取ることができる。

□　**個人目標**　　(C1) 問い合わせたいことについて，話し合いの中で意見を言うことができる。
(C2) 問い合わせたいことについて，話し合いを通して整理し，電話で聞くことができる。

□　**学習の流れ**（３時間目／全２０時間）

言語活動の充実

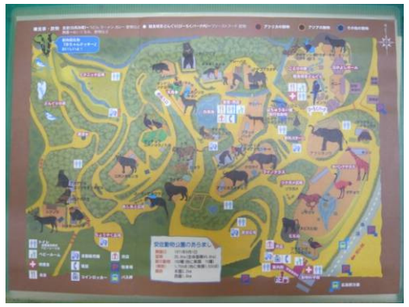
学習活動	指導上の留意事項 C1	指導上の留意事項 C2	評価規準〔観点〕（評価方法）
1　挨拶をする。			
2　めあてと授業の流れの確認をする。	・ボードに書いた，全体の目標と個人の目標と授業の流れを確認し，見通しをもたせる。		・本時のめあてや流れを注視している。〔関心・意欲・態度〕（行動観察）
3　問い合わせたい内容について話し合う。 ○　前時までに調べたことを，ワークシートを見ながら思い出す。 ○　問い合わせたい内容を発表し合い，ワークシートに整理する。 4　電話をかける。 ○　具体物（模擬電話機）を用いてリハーサル（やりとり）を行う。 ○　事務室に移動し，実際に電話をかける。	・写真入りワークシートを用意し，話し合いの流れがつかみやすいようにする。 ・相手の方を向き，相手を意識させながら，意見を発表させる。 ・模擬電話機を使ってリハーサルを行い，相手が見えないことを確認させ，はっきり話すことや順序良く話すことの必要性に気付かせる。	・話し合いの流れがつかみにくいときは，写真カードを提示し，考えを深め，発表したいことが整理できるようにする。 ・問い合わせする順番に，ワークシートに整理して記入させる。 ・模擬電話機を使ってリハーサルを行い，簡潔に伝える話し方を練習させる。 ・メモをとる練習をさせる。	・話し合いの中で自分の意見を発表できる。〔思考・判断・表現〕（行動観察，ワークシートの記述）C1 ・電話を使って相手に必要な情報と質問事項を伝え，相手の話を聞きとることができる。〔技能及び知識・理解〕（行動観察，ワークシートの記述）C2
5　問い合わせて分かった内容を報告し合う。 6　本時の活動を振り返る。 7　次時の予告をする。 8　挨拶をする。	・発表した内容を板書し，ワークシートに記入させる。 ・問い合わせにより，分かったことの確認をする。 ・めあてが達成できたか，具体的に評価する。	・相手に具体的に伝えさせる。	

指導のポイント

授業に見通しをもたせるための支援を工夫する

■　言葉による説明だけでなく視覚的支援などを加えることで，生徒が授業の見通しをもちやすくなり，落ち着いて授業に参加できるようになるほか，話し合いを深めることができるようになります。

【視覚的支援の例】構造化された板書（色分けなど）
写真　絵カード　　実物　　模型



基礎的な知識・技能を体験的な活動に結び付けながら表現力を高める

■　**具体物を用いた**リハーサルの実施により，本番のイメージがつくりやすくなり，基礎的な知識の般化（語彙の習得）につなげることができます。また，成功体験により，自己肯定感を高めることができます。

リハーサル　　電話（本番）　　報告

模擬電話を用いてロールプレイ

経験・練習→自信

模擬的体験
具体的修正
イメージづくり

まとめた質問内容を**読む**こと
挨拶，質問などを**話す**こと
相手の話を**聞く**こと
聞いた内容を**書く**こと（メモ）

実際の活動→達成

分かったことを分かりやすく伝える。

語彙の習得・自己肯定感の高まり

生活単元学習　　ワークシート
月　日　曜日
【計画内容】
目的
１いつ（　　）
２どこで（　　）
３だれと（　　）
４内容（　　）
５買い物の学習のまとめ

■　言語環境の整備により，生徒は理解しやすくなり，正しい言葉づかいを身に付けることができます。
（例）シンプルで分かりやすい指示
発表の仕方のパターン化
電話の応対例の明示
教師の正しい言葉づかい

新学習指導要領では

必要な知識・技能を習得し，生活に生かすための実際的・具体的な内容を重視

○　生活単元学習の指導計画の作成に当たっては，「単元は必要な知識・技能の獲得とともに，生活上の望ましい習慣･態度の形成を図るものであり，**身に付けた内容が生活に生かされるもの**であること。」「単元は，豊かな内容を含む活動で組織され，児童生徒がいろいろな単元を通して**多種多様な経験ができる**ように計画されていること。」と示されています。

○　本事例では，「歓迎会をする」ことを目的とし，分からないことを電話で問い合わせるという経験を通して，言語に関する能力を育成します。このように，言葉の選択や意思表示ができるようにするためには，**生活の様々な場面で人とかかわる際の具体的な方法を身に付ける**ことが大切です。

小学校（発達障害）算数科 の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

○　10000 までの数の大小比較の仕方を考え，算数の用語を使って説明することができる。

⇒ **思考力，表現力の育成**

□　**学年**　　第２学年（通常の学級）

□　**単元名**　　もっと大きい数をしらべよう「10000 までの数」

□　**本時の目標**　　４桁の数の大小関係が分かる。

□　**学習の流れ**（６時間目／全７時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕（評価方法）
１　前時の復習をする。 ２　問題場面を知る。	・注意がそれやすい児童も学習に集中できるように，学習に必要のない物は片付けさせ，学習しやすい環境を整えさせる。 ・ホワイトボードで学習の流れを示す。	**＜学習の流れ＞** 今 １ふくしゅう ２もんだい ３かだい ４じぶんで ５ペアトーク ６はっぴょう ７まとめ ８れんしゅう ９ふりかえり
どちらの　ぬいぐるみが　たかいですか。 ①３９０２円　４１２０円　②８７６８円　８６８９円		
３　本時の課題をつかむ。	どちらの数が大きいか，くらべかたをかんがえよう。	
４　自力解決をする。 ・「お金の模型・位取り板」を使って算数的活動をする。 ・ワークシートに記録する。 ５　ペアトークをする。 くらべ方をはっぴょうしよう ６　考えを発表する。	・理解度に応じて自己選択できるように，ワークシートを数種類用意しておく。 ・ペアで伝え合わせ，全体発表への意欲付けを行う。 ・聞き方を示したカードを配付しておく。 ・ワークシートの記載に沿って結論先行で発表すること，自分の考えとの共通点・相違点に注目して聞くことを指示する。 ・黒板で具体物を操作しながら，児童の発表を補足したり，復唱したりする。	**＜聞き方カード＞** １あい手の話をさいごまで聞く。 ２聞きおとしたところは，「もう一度言ってください。」 ３わかったら「わかりました。」
７　数直線上で大小を確認する。 ８　まとめる。	・大小比較のポイントを算数の用語を使ってまとめる。	・10000 までの大小比較の仕方を理解している。〔数量や図形についての知識・理解〕（プリント）
大きい位からじゅんにくらべていく。数が同じだったら次に大きい位でくらべる。		
９　練習問題をする。 １０　振り返りをする。	・振り返りの話型を使い，本時の課題に沿った振り返りをさせる。	

言語活動の充実

＜振り返りの話型＞　今日は，「どちらの数が大きいか，くらべかたを考えよう」の勉強をしました。
わたしは，「大きい位からじゅんにくらべていけばいいこと」が分かりました。

指導のポイント

児童の思考を促すために，算数的活動とワークシートを工夫する

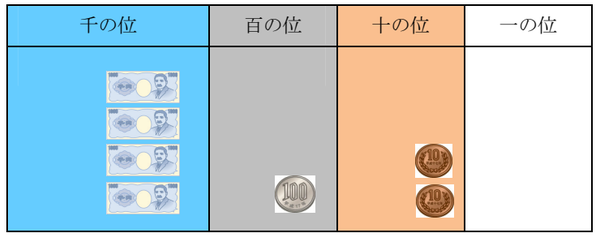
■　具体物を用いた算数的活動は，順序立てて物事を考えることが難しい児童の思考を促すことに役立ちます。その際，色分けした位取り板の使用で，視覚認知の弱い児童が位の区別をしやすくなります。

お金の模型を使った算数的活動

↓ 工夫

お金の模型と色を合わせた位取り板を活用した算数的活動

［例］



■　話型を記したワークシートに自分の考えを書いていくことで，記憶力の弱い児童や文章を構成する力の弱い児童が筋道を立てて考えるのを助けます。

「考え方をノートにまとめましょう。」

↓ 工夫

「分かったことをワークシートに書いてまとめましょう。」

［例］

「どちらが　たかいでしょう」

わたしは，お金で考えました。

	千円さつ	百円玉	十円玉	1円玉
3902 円				
4120 円				

3902 円と 4120 円では，　　円のほうがたかいです。

りゆうは，

安心して自分の考えを述べることができる場づくりをする

■　全体発表の前に**ペアトークを取り入れる**ことで，安心して自分の考えを述べることができます。聞き方カードを使用したり，「間違いを笑わない」「相手におへそを向けて話す」「話し手を見て聞く」等，発表の時のルール（学習規律）を確認したりして，**受容的な学級づくり**を行いましょう。

■　全体発表の際には，結論先行で端的に述べさせるようにしたり，自分の考えとの共通点・相違点に注目して聞くなど聞き手に視点を提示したりすることで，聞き落としをしやすい児童が話の内容を理解しやすくなります。

新学習指導要領では

集団の中で，安心して話ができる人間関係づくりを重視

○　今回の改訂で，児童の言語環境の整備と言語活動の充実（総則編第５節）において，**児童が集団の中で安心して話ができるような教師と児童，児童相互の好ましい人間関係を築くこと等に留意する必要がある**ことが記載されています。そのためには，自分の考えをしっかりもたせるための個々の児童の障害の状況等に応じた指導内容や指導方法の工夫と，受容的な学級経営が重要です。

○　本事例では，筋道を立てて考え，発表につながるワークシートの作成と，それを活用するペアトークの活動を位置付けています。さらに，学習規律の確立を図ることで，児童は安心して自分の考えを述べることができます。